

# ゆめ わらわ 夢 亭

菅波 茂

2014年1月20日より5日間。神奈川県茅ヶ崎中央ロータリークラブメンバーとパキスタンにてポリオ撲滅運動の情報収集。「談論風発」にして有言実行」のロータリークラブである。訪問したのは、首都のイスラマバードでは日本大使館、首相付ポリオ撲滅担当官、NRSPP本部（詳細は後述）。カラチでは総領事館、NRSPPのタッタ地区におけるポリオ担当、カラチロータリークラブ等である。

ポリオ発生率は減少しているが北西部辺境州など特定地域で80%と特徴がある。都市住民30%で残りの70%が貧しい農民。彼らは識字率は低くテレビやラジオを持っていない。部族社会なので女性と子どもには女性しか接触できない。彼らに対するポリオキャンペーンをどうするのか。NRSPPが考え出したのが「女性健康普及員」のシステムである。教育を受けた女性健康普及員が各家庭を訪問してポリオワクチン接種の必要性を母親に教える。問題は彼女たちに対する必要な教育の提供と給料である。報酬は月に1万円と安いので辞めやすく、十分な教育を受けた女性普及員の確保は困難である。更に、ポリオ対策が米国のスパイ活動に利用されたこと、ポリオ接種関係者が殺される事件が続いていることも困難を助長する。

「家庭健康教育プログラム

## ポリオ撲滅運動 in パキスタン～「世界家庭健康教育基金」



（後列右から）茅ヶ崎中央ロータリークラブの小川氏、筆者、同クラブ木村氏、首相付ポリオ対策技官。（前列右から）AMDA本部の岩本看護師、A.R.Farooq首相付ポリオ撲滅担当官、同クラブ前川氏＝イスラマバードの首相官邸で

ラム3ヶ年計画」を提案した。岡山県が誇る母子の健康を守ってきた「愛育委員会」の考え方である。女性が、単に健康情報を与えられる立場から、健康情報を普及させる立場への昇華である。健康情報を持っている女性は、その情報を子ども、夫、両親を通じて近所の人たちに伝達する。

具体的には、若い女性

1年間で100万円。3カ年で300万円。対象地区は若い女性数が5000名ぐらい。3割の女性が健康情報を普及させる立場になれば量から質への転換が期待できる。成功した地域モデルはポリオを含む健康知識の普及を加速させる。

パートナーとなるNRSPPは1992年にパキスタンで発足し22年目。職員数は全土に7000名。活動地域は15万カ所。対象者は250万人。パキスタン政府から提供された1億円から現在は100億円の資産。コミュニティ組織を中核に農村の道路や水道の整備、健康や教育プログラム、収益事業を実施。2012年にはNRSPP小規模融資銀行（商業銀行）を発足。自己資金52%に加えてIFC（国際金融公社）、世界銀行グループや欧州の銀行、ソーシャ

ルファンドが出資して設立したという。2015年秋には国際会議を東京の渋谷区青山にある国連大学で開催したい。「家庭健康教育プログラム」を国連に政策提案するためである。主催は国連経済社会理事会総合協議資格のあるAMDA、NRSPPそして国際ロータリークラブの三者。後援は日本政府とパキスタン政府。国際機関としては女性の社会的地位向上を目指す国連人口基金や国連開発計画、ポリオ対策を主導するWHOとともに。会議の成果として「世界家庭健康教育基金」を創設したい。パキスタンと日本の智慧を、AMDAとNRSPPの現場力に加えて国際ロータリークラブのネットワーク力が、世界に啓蒙普及させる。最高の喜びであり夢である。

（AMDAグループ代表）